

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300116		
法人名	株式会社 マジェスティック		
事業所名	芦刈紀水苑		
所在地	小城市芦刈町永田3220-2		
自己評価作成日	平成26年3月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年3月25日	外部評価確定日	平成26年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療機関とは24時間連携が取れており、入居者のみならずご家族、スタッフともに健康管理への不安なく生活できている。入居期間のながい入居者さまも多く、入居者様、ご家族、スタッフとのなじみの関係が出来ている。地域の消防団の協力で、消防の避難訓練なども出来ている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>芦刈町の南端、白石町に続く国道近くの古い住宅地の中に建つ平屋建てホームである。静かな生活環境であるが、六角川河口の堤防沿いの低い土地に建つため、隣接2地区の区長や地域住民の協力を得て防災に力を入れている。災害・火災それぞれの避難経路を確保し、玄関には防災別の避難経路地図を貼っている。消防団とのつながりを大切にしており、運営推進会議において災害時には遠くの消防署よりも近くの消防団、との助言を頂き、災害時には真っ先に消防団の団長に連絡が入るように自動通報装置を備えている。地域とのつながりが強く、避難訓練には近所の住民も参加し、避難誘導や入居者への見守り協力が実施されている。訪問して感じたのは入居者同士仲が良い事。リビングのソファで入居者同士が新聞を見ながら世界情勢や外国の話、政治の話をしていたり、食事の時も楽しそうに話す様子、体調の良くない入居者を皆でいたわる様子などから、ほのぼのとした人間関係が構築されていると感じられた。「ほのぼの ほ・ほ・ほ ほっとして ほほえみ いっぱい ありがとう」と書かれた書がリビングに掲げられているが、正にその通りの光景である。「地域とのまじわりの中で ゆっくりとすこやかにお互いを尊重し合う」という理念の基、高齢で・自宅ではない場所で・知らない人々に囲まれて・不安があると思うが、家の延長としてゆっくり生活して頂きたいという管理者の思いが伝わる事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交界りのなかで、ゆっくりすこやかにお互いを尊重しあう」を目標に実践している。	地域密着型サービスの意義と役割を踏まえた「地域とのまじわりの中で ゆっくりとすこやかに お互いを尊重しあう」という理念を作りあげ、支援にあたっている。理念はリビングや玄関など目に付きやすい壁に掲げられ、理念の確認と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設して11年目を迎えており、地域の方々とつながりのなかで生活できている。	地域住民の事業所への理解が深く、入居者の見守り支援や色々な助言を頂く関係ができ、地域の一員としての交流がなされている。地区の掲示板も自由に使用できる。掲示板に避難訓練の参加呼びかけや事業所でのAED講習会開催の案内文書を貼り、多くの地区住民の参加に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事の中で認知症への理解は深まっていると思うが、勉強会のような場は設けていないので、機会があれば行いたいと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で報告し、理解を深めてもらっている。	運営推進会議は、家族や隣接2地区の区長、包括支援センター職員、消防署員の参加で年間6回開催されている。委員の意見から、緊急時の自動通報装置がつながる順番を変更したり、災害の種類に合った避難経路の確認・再考や避難訓練の充実など、サービスの向上につながる有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者変更の連絡などもスムーズで協力関係を築けている。	市町村担当者との連絡は、地域包括支援センターを通して行っているが、分からない事があれば何でも聞ける関係はできている。入居者の年金受給などで、福祉課職員とは連絡を密にとれる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会を通して理解を深めているし、実践できている。拘束対象となる場合にはきちんと同意書を頂いている。	契約時に入居者と家族に事業所の方針を説明し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。職員は、身体拘束に関する研修会に参加し、言葉による拘束も無い支援を心がけている。家族の理解を得て居室にセンサーを付けているが、音が気に入らない様に工夫されている。入居者は自由に行動することができ、職員は見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今期は虐待についての勉強会は行っていないが、入居者様の表情や身体状態には注意を払い、虐待になっていないか注意している。	2014/4/17	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の機会は設けていないが、必要な場合には相談できる環境は整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけてわかりにくい部分やご家族の不安・疑問点について説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんからの要望は出にくいですが、家族会時にはゆっくり時間をとり、会話の中で要望が出せるようにこころがけている。	職員は家族や入居者と話す事を心がけ、意見や要望の把握に努めている。また、年に1回、家族会を開催し、要望を聞く機会を設けている。新しい入居者家族には、管理者の携帯番号を伝えており、意見や要望が出しやすい環境を整えられている。出された意見や要望は、速やかに検討し、運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中での気付き、要望に関しては、主任クラスの職員から代表者へ提案するようにし、スタッフ会議でも意見が出せるようにしている。	管理者と職員は、普段からよく話し、何でも言える関係ができています。管理者は、職員の様子や体調の変化、思いなどに早く気付くように努めている。職員は積極的に意見や提案をし、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の状態、がんばりを把握しており、よりよい職場になるよう努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	FC勉強会、苑内勉強会を通して、知識の向上に努められるようにしている。資格取得のための休み希望にも対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1度、FCでの交流研修への参加や勉強会を通しての交流で、ネットワーク作りがなされているので、お互いに相談が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	親身になってお話を聞き、お答えする事で信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なるべく時間を作っていただいとお話をさせていただくように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、担当者からのお話、情報提供から必要なサービス、対応を見極められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	雑談のなかで入居者様にいろいろなお話をさせていただき相談に乗ってもらえたりしている。冗談を言われたりする入居者様から元気をもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居期間が長い入居者様のご家族とはお付き合いも長くなっていくにしたがって、ご家庭のことをお話されたり、ご家族の喜びに遭遇する事も増えていき、いい関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅から離れられると、なじみの場所の利用は少なくなってくる。場合によっては、ご家族から関係を断ち切られることもある。	入居前に情報収集を行っており、馴染みの人や場所との関係・生活歴を把握して支援している。知人や友人の訪問時にはお茶の接待をし、居室でゆっくり過ごせる雰囲気づくりがなされている。自宅の仏壇参りや墓参りなどの要望があれば家族に連絡を取るなど、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今までの生活歴により関わり合いを嫌われる方もおられるが、無理のない範囲で関わりを持たれるように気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談などがある場合には応じてきたし、今後も対応していきたいと思っているが、転居先での生活がスムーズな場合には相談を受ける事がないように思われる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望、意向はなかなかでないのが実状だが、答えが出やすいような言葉かけを心がけている。	職員は、入居者とゆっくり話す事を心がけており、日常生活の中から表情や様子を見て、意向や思いを汲み取る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を記入して頂いたり、お話を聞く事で経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居数日は特に、それ以降も観察やかかわりを密にし、状態の把握に努めている。健康状態については、1日2回もしくは3回のバイタル測定を行い、異常発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で全スタッフから意見を聞いたり、家族からの要望も取り入れるようにしている。ケアマネの専門的な意見を参考に介護計画書を作成している。	入居者本人や家族から要望を聞き、本人・家族の希望などを汲み取った具体的な介護計画が立てられている。介護計画書は、内容・状態・短期目標・介護内容の重要度別など分かりやすく書かれており、毎月のスタッフ会議で内容の確認が行われている。なお、状態に変化が生じた場合は、速やかに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子がよくわかるような記録を心がけている。1ヶ月の流れが把握しやすいような記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて対応できるような環境は整えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として受け入れていただいているので、そのなかで安心して暮らせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に今までのかかりつけの医師への通院か、苑への往診かを選択していただいている。	入居者や家族の意向を大切に、事業所の協力医への受診変更の他、入居前のかかりつけ医の継続受診を支援している。契約時に往診や通院における事業所ができる事とできない事を説明し、かかりつけ医変更の意向確認を行っている。通院は家族の送迎を基本としている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも連絡が取れるので、指示や往診など必要な対応をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行くなどして病院関係者との関係作りに努めている。施設の役割を理解していただき、退院、入院継続などの判断をしていただける関係作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設で出来るターミナルケアについて説明している。ケア方針については、ご家族・主治医・施設側との話し合いの場を設け、共通の理解の下、進めている。	重度化や看取りに関する指針があり、契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。重度化するなど入居者の状態に合わせて家族や主治医と話し合う体制ができており、家族と事業所・主治医は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今期は救命法の講習会を受けていないので、来期は実践したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区消防団との避難訓練をおこなった。自動通報装置の1番目には消防団団長の連絡先を登録させてもらえるようになった。	消防署や消防団・地域住民の参加・協力を得て、年2回消防避難訓練を実施している。事業所が低い土地に建つため、避難経路は火災と災害別に考えられている。避難経路をいつでも確認できるように、避難経路地図を玄関に貼っている。地域住民や消防団との協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。	個人情報の取り扱いは、重要と認識しており、契約時に家族等に十分説明し同意を得ている。個人が特定できる写真や氏名の掲載は許可を得た入居者であっても、外部に出す場合はその都度家族に確認をとっている。職員は毎年接遇研修を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出せない方が多いが、答えが出しやすいような問いかけを行っている。誕生日祝いを具体的に希望される入居者もおられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の一応の流れはあるが、その時々の方のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所の鏡とブラシを使ってご自分で整髪できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には片付けなど手伝っていただき、生活の張りにしてもらっている。	入居契約時に嗜好調査を行っている。誕生日や特別な日は、赤飯やちらし寿司など、入居者に喜ばれる祝い食を作っている。毎年、敬老の日頃には、全員で外食し、好きなものを注文している。食事は、職員も一緒に同じものを食べ、入居者・職員皆で楽しい会話をしながら食事時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの摂取量を把握している。カロリーで把握している入居者様もおられる。飲み物の種類を変えたりして、水分不足に気づけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに合わせた口腔ケアをしている。スポンジや口腔ケアジェルなども使用している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレチェック表を使用して、ひとりひとりの排泄パターンを把握している。	記録により入居者一人ひとりの排泄パターンを把握している。時間や態度・様子を見ながら、トイレでの排泄を見守り支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分摂取に力を入れている。種類を変えて水分を取ってもらったり、内服薬を調整して排泄をスムーズにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に3回の入浴・清拭を行っている。シャワーチェアなどを使用し、入居者・スタッフの双方への負担軽減をしている。	入浴は、週3回を目安としている。入浴を拒まれる場合は無理強いせず、声掛けや対応を変えたり、清拭で対処している。入浴しない時はトイレ使用時などに下着交換し、清潔に保つように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごす事を好まれたり、個々の生活習慣に合わせて過ごされるよう気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容がすぐにわかるようにファイルをしている。個々に合わせた服薬支援を行い、薬の内容が変わったときには、変化がないか、観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いや軽作業をしていただき、生活のハリにしてもらっている。今年度は、野菜を育てて、収穫の喜びを味わわれた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のよいときには散歩をしている。年行事の中で外出を計画しているが、入居者様の状況で、年々外出は厳しくなっている。	気候の良い時には、近くのお不動さんや公園、ホームの周りなどを散歩している。足腰の丈夫な方は、菜園で野菜の収穫をすることもある。車イス利用の入居者が多いが、天気の良い日は駐車場に車イスを並べ、外を眺めながら日向ぼっこをされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、お守り程度に小額のお金を所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話をお持ちの方もおられる。苑の電話で電話をかけられる方もおられるが、かなり少ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様がわかりやすいような表示を心がけている。温度・湿度・喚起には特に注意をしている。季節の飾りつけも行うが、高齢者に合う飾りになるように注意している。	リビング・食堂・廊下は広く、入居者は自由にのんびりくつろぐことができる。毎朝と昼、時間を決めて窓を開け、換気を心がけている。空気清浄器や加湿器を活用しており、心地よい空間となっている。花や手芸作品で季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見え方・聞こえ方により、リビングでの位置が自然に定位置となる事が多い。安全面から自然にリビングで過ごされるように促すが、居室に戻られているときには安全に過ごされているか見守りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人の受け止め方によりけりで、使い慣れたものを持ち込まれたり、ほとんどもってこられない方とさまざまである。使い慣れたものを持ち込める事は伝えている。	居室は広く、洗面台付きである。職員は、家族に馴染みの品物等の持ち込みを勧めている。テレビやイス、衣装ケースを持参している入居者も居る。室内には写真・手芸品などが飾られ、その人らしく心地よく過ごせる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路を確保して歩きやすくしたり、センサーを使って安全確保に努めている。安心して過ごせる施設を目指している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
		2014/4/17	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない